



## 23年度通常枠PO研修

# 伴走支援の事例紹介

事務局／プログラムオフィサー  
大村みよ子



## 【沿革】

- 2000年～2011年 NPO中間支援団体にて、市民活動支援基金運営（のべ72団体総額1780万円の助成）
- 2012年5月 一般財団法人として設立 ※設立原資（300万円）は、個人171名25法人からの寄付
- 2013年4月 公益財団法人化（千葉県認定）
- 2016年 「いぞう寄付の窓口」開設
- 2020年 休眠預金等活用法に基づく資金分配団体に採択される（緊急枠・通常枠）

## 【ビジョン】

あらゆる人たちが主体的に地域の未来を担い合う社会を構築し、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。

## 【ミッション】 ー多様な主体とともに「志金と社会資源の流れをつくる」ー

千葉県内の地域課題とその解決に取り組む市民公益活動を可視化し、多様な形で寄付を呼びかけることで多くの人々が地域づくりの取り組みに参加が可能となる環境をつくり出すことを目指し助成を行います。

【役員】 評議員6名 理事6名 監事2名 顧問1名      【職員】 事務局：4名（常勤3名・パート1名）

【助成総額】 246,902,751円／139件（2023年3月末）

## 1. 助成事業

地域資源の循環、地域課題解決を目的に、資金調達した意志あるお金（人・物等の社会資源）を適正な審査を経て、千葉県内の市民公益活動団体へ助成します

**テーマ・地域型基金、冠基金、事業指定助成、資源仲介**

## 2. 寄付促進事業

個人や企業からの寄付による基金創設、遺贈寄付の相談窓口など、寄付文化を創造するための様々な活動を行います

**寄付付き商品、遺贈寄付、チャリティイベント**

## 3. 連携・協働促進事業

行政・企業との架け橋、制度との架け橋、他の支援機関との連携など地域課題解決に向けた多機関の連携を促進します

**地域円卓会議、課題解決WS、企業の社会貢献活動の支援（CRM、ボランティアマッチング）、情報共有の場づくり**

## 4. 組織基盤強化

市民公益活動団体の組織基盤強化を目的に、「ファドレイジング」「マネジメント」「マーケティング」「社会的インパクト評価」等、様々な研修を行います

# 伴走支援の事例

## 【事業名】 若年就労困難者のための包括的就労支援事業

(副) 就労までの選択肢の拡充と就労定着に向けた仕

組み作り

【事業実施期間】 2024年4月～2027年2月28日

【助成総額】 約9,000万円

従来の就労支援における3つの課題

- 選択肢の不足
- 支援者と企業の距離感
- 社会資源の共有が不十分



15歳～39歳頃の就労困難者（働きたいが働けない若者、就労が実現しても不安を抱える若者）に対し、

- ① 就労に至るまでの選択肢の拡充
- ② 就労定着支援体制づくり
- ③ 社会資源を有効活用する仕組み作り

団体名	事業名	主な活動
NPO法人キャリアbase（柏市）	通信制高校で就労に困難を抱える生徒のための就労支援事業（副）不登校の生徒たちが社会で働き始めるための社会基盤を地域につくるプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>居場所づくり、キャリア教育、個別就労支援</li> <li>企業側への「ステップアップ採用枠」の啓蒙とネットワーク化</li> <li>「ステップアップ採用」に対する「補助金制度」の創設に向けた活動など</li> </ul>
認定NPO法人キャリアデザイン研究所（柏市）	生きづらさを感じている若者向け幸せ多様性実現事業（副）重層的な制度に当てはまらない若者だれでも受け入れるサポート事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルとオンラインの居場所で一步を踏み出せる環境づくり</li> <li>若者がいきいきと働ける環境づくりのためのネットワークづくり</li> <li>若者と企業のマッチング など</li> </ul>
企業組合We need（市川市）	「働きたいのに働けない」生きづらさを抱える若者のための中間就労の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間就労の場の提供</li> <li>家族機能の補完、強化</li> <li>若者・企業・支援者が相互理解を深める「おしごと交流会」の実施など</li> </ul>

# チームについて（23年度）



## 【チーム構成】

- 少数（3人）のチーム
- P O 2名（P O 歴12年 + P O 歴2.5年）

## 【役割分担】

志村：責任者、P O

大村：P O、団体や関係者との連絡調整

元吉：月次の精算、システムでのやりとり

自分たちだけで役割分担を理解しているだけでなく、  
実行団体にもこの体制・役割分担を伝えている。

## 【コミュニケーション】

- 基本的には平日は毎日事務所に出勤し顔を合わせている
- 伴走支援に関する意思決定はスピーディー、オープンに意見交換・フィードバック

## 【ツール】

- ちばのWAは「Teams」
- 実行団体とは「slack」（3団体共通のチャンネル + 団体専用のチャンネル）
- Miro（ロジックモデル作りなど）

## 20年度を振り返って

### 【事業設計図（ロジックモデル）の重要性】

- 共通理解をするためにもしっかりつくり、活用したかった。  
→ 事前評価、もっとしっかりやっていたら…

### 【実行団体の事業の進捗把握】

- 月1回のオンライン面談で進捗状況を把握するのは難しかった。  
→ 実行団体内の関係性、ちょっとした変化。訪問していれば…



23年度では、

- **評価を事業に生かす**（まずは事前評価をしっかりと）
- **月1回の月次面談以外にも実行団体の事業の進捗がわかる機会をつくる**

ことを決めましたが、PO2名でこれらを十分に行うことは難しいと判断し、外部の方の協力を得ながらの実行団体への伴走支援を試みています。

# 20年度の学びから伴走支援に生かしていること



## 3か月に1回の振り返りWS

3団体合同で行う。目的は「事業力・支援力」の向上

- ・進捗の把握
- ・月次面談ではわからない関係性

実行  
団体

ちばのWAの  
評価の伴走  
支援者

定期MTG



専門家

FDOも評価を理解する  
わからないこと・不安の解消

## 【良かったこと：外部の方の力を借りて精神的にラクになった！】

- 作業量は減ったわけではないが、 気軽に相談できる人がいるという安心感。
- 伴走支援の「視点」が増えた（判断基準、選択肢）

## 【ちょっと心配なこと：WSの回数と頻度】

- まだ1回目が終わったところで実行団体も新鮮な気持ちで参加してくれているが、それが回を重ねるとどうなるか。